SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義＝

社會主義は土地、資本、其他あらゆる生産機關の公有を主張する者なり

直言

吾黨の候補者

五月十六日、東京市に於て衆議院議員補缺選擧執行せらる、吾人は此時に際し敢て吾黨の候補者を推薦し玆に政界に於ける實際運動の端緖を開かんと欲す

吾人は乃ち吾黨の候補者として、品性、學識、才能(殊に雄辯)に於て同志中に卓越せる

木下尙江君

を推薦せり、而して木下君も亦進んで其任に當るを辭せす、直ちに其宣言を發表せり

然れども、今日に於ては、選擧場裡の成敗は吾人の目的に非ず、吾人は只神聖なる幾個の投票を泥土の内に掬ひ、之を高處に揭げて燦然たる光輝を放たしめんと欲するのみ、其票數は僅かに十個なるも可也、五個なるも可也、三個なるも可也、或は單に一個なるも亦可也

同志諸君、願はくば諸君と共に敢て此の愉快なる運動に力めん

日本社會主義同志

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

●宣言書

衆議院議員候補者　木下尙江

(一)吾人は何故に起てりや

五月十六日を以て擧行せらるべき東京市衆議院議員補欠選擧の一事は、鬱勃たる潜勢力殆ど抑ふべからざる社會主義の運動に取て、決して逸すべからざる好機會と云ふべし、即ち吾人同志の理想をして他年實行の堂に達せしむべき階梯として、敢て我黨の候補者を推薦するの議一決すると共に、余は遂に候補者たることを辭すべからざるの境遇に臨めり、

諸君、余は今ま衆議院議員候補者として敢て東京市の中央に起ちたる也、

怪て問ふものあり、曰く『東京市の投票實に一萬數千、而して君果して何票を獲得せんと欲する乎』、余答へて曰く『殆と一票だも豫期する所無き也』、客啞然として大笑して曰く『何ぞ狂愚にして且つ滑稽なることの餘りに甚しきや』と、然れ共諸君、余は毫も之を耻ぢざる也、

吾人は我黨の代表者が成るべく速に議會に入らんことを熱望す、然れ共今や政府は全力を盡くして社會黨を迫害し、社會亦た戰爭に憚つて、力めて社會主義者に遠からんことを欲するの時、特に過重の制限選擧法の下に立ちて社會黨の候補者が多數の投票を獲得せんことは、思ひもよらざる所也、去れば此間に立ちて不斷の盡瘁を試むるに非ずんば、如何にして他年一日の成効を望むべけんや、是れ吾人の空拳を揮て敢て選擧場裡に奔走せざるべからざる所以也、

(二)專念普通選擧を要求す

余は先づ自己の政見綱領を發表せざるべからず、是れ候補者として執るべき普通の方式なれば也、然れ共余は幸に此の手數より免れ得ることを感謝せずんばあらず、「社會主義」の一語は千言萬句に勝るべき切實明白の宣言なれば也、故に吾人は此の宿論計畫をして實行の途に就かしむべき手段如何を說明せば足る、他なし選擧法の改革是れ也、現行選擧法の根本的革新是れ也、約言すれば『普通選擧』の實行即ち是れ也、夫れ選擧權は民政の鍵なり、鍵を得ずして空しく庫中の寶を言ふ、豈に愚昧の極に非ずや、

故に我黨は大聲疾呼して普通選擧の實現を必期す、吾人の主張には一毛だも懸直を存せず、吾人は丁年以上の國民は凡て直に選擧に關與するの責任あることを信ずるが故に、選擧權の得有は自明の眞理なることを唱道す、豈に復た其間に男女の差別を問はんや、

(三)帝國主義者の恐怖

普通選擧の實行は特に今日に於て切迫の必要也、何等の好戰漢と雖も日露戰爭の刻一刻終局に近きつゝあることを否認する能はざれば也、夫れ政府が戰後經營の名下に更に急速力の軍備擴張を經畫すべきは、何物の愚も豫知する所に非ずや、

今や歐米諸國の資本家政治――帝國主義は清韓の墟頭を突て四來競爭す、彼等は互に日本を引いて一時の手足と爲さんとす、而して漸次助長しつゝある日本の資本家的勢力も、亦た更に政權を占領して以て日本國民を提げて所謂東洋問題の渦中に投せんとする也、帝國主義は外に對して新侵略主義也内に在りて新貴族主義也、故に帝國主義の跋扈する所必ず社會主義の勃興を見ずんばあらず、而して諸君は先づ必ず選擧權の擴張は、帝國主義者の讐敵として恐怖し排斥する所なることを注意せよ、

(四)民政發展上の危機

今や日露戰爭の苦痛は國民をして普通選擧の必要を自覺せしめぬ、國民の最大多數は事實に於て立憲政治以外の浪人也、而して兵卒の課役と、戰費の負擔とは、此の浪人たる農民職工等(紳士閥の所謂最下層の賤民)の任務たり、爰に於てか果然彼等は漸く疑問を發見せり、曰く是れ果して人類の正義と公平とに近き現象なりやと「兵役の義務あるものは選擧の權利無かるべからず」とは滑稽にも堂々たる識者輩が今更の如くに喋々說教する眞理なり、然れ共諸君は記憶せざるべからず帝國主義の大敵は普通選擧なり、無權利の賤民多からずんば資本家政治は成効せざる也、軍隊政治は成効せざる也、知らずや帝國主義の好個代表者たる獨逸皇帝の唯一の苦心は、即ち同帝國の「普通選擧」に在ることを、――故に諸君は「普通選擧」に着目せざるべからず、是れ今後政界の天王山なれば也、苟も民政の發達社會の康寧を欲求する者は、必ず先づ之を占領せざるべからず、普通選擧のこと豈に言ひ易からんや、

人格の獨立を重んずるものは來れ、社會の平和を尊ぶものは來れ、而して共に「普通選擧」の大旆を擁して突進せよ、吾人は自ら任じて諸君の先鋒たらんが爲に、今敢て此に起ちたる也、

●社會黨選擧大演說會

明十五日午後七時より、神田青年會館に開く、辯士及演題左の如し

△社會黨の第一主張　木下尙江
△平民の死活問題　石川三四郎
△財政根治策　山田金市郎
△木下君を推薦する所以　齋藤兼次郎
△勞働者の代表　山口義三
△平民活動の時機　松崎源吉
△選擧權無き者は人に非ず　堺利彥
△國民權利の伸張　羽田重信

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALIST.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.

Vol. II. Tokyo, May 14th, 1905. No 15.

THE SOCIALIST CANDIDATE.

The death of Mr. Taguchi has caused a bi-election to be performed on the 16th inst. in the city of Tokyo. There appeared three candidates in the election. Mr. Yena is recommended by the *Shiyukwai* (the most powerful party under the influence of Marquis Ito), Mr. Hayashi who is neutral, assisted by the *Shimpoto* (the second powerful party led by Count Okuma), and Comrade Kinoshita of the socialist party. At a previous general election, Comrade Kinoshita fought a brave fight in the city of Mayebashi, though he got only 29 votes. Now it is the second time that any socialist appeared as a candidate in the election. Of course we do not expect to gain victory under the present condition of the limited suffrage. But this is our first step to begin the practical movement in the political world.

Accordingly, Comrade Kinoshita's declaration of the political views as the candidate has laid stress on the universal suffrage, without which we can do almost nothing in the political world.

Comrade Kinoshita is very well known as a writer, a lawyer, and above all an orator. His oratory is perhaps the best one, not only among the socialist speakers, but of all the speakers in Japan. And he is now making his eloquent speeches every evening in the city. But the police, unlawful as usual, tries to stop his speech and dissolve the meeting each time.

The population of Tokyo is said to be 1,800,000, of whom only 16,800 have the right to elect members of the Diet. Of these 16,800, we do not know how many votes Comrade Kinoshita can get. But we will be quite content to see only a few votes for him. Let the votes be ten, five, three, or even one, and yet they are true, unadulterated, precious votes, representing the proletariat of Japan.

The government does not formally permit us to organise any political party by socialists. But when there are socialist votes in the election, however few, the socialist party can be said to have been established in reality. This is the aim of our movement at the coming election.

By the way, it is very interesting to think that the death of Mr. Taguchi who was one of the most noted economists of the Manchester school, has given an opportunity to rise for a socialist candidate.

The 16th is very near. We will be able to inform the readers the result of the election in the next issue.

(平民社電話　本局三二六二番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○東京市の補缺選擧

田口卯吉氏の意外なる逝去は、意外なる時に於て東京市に補缺選擧を來せり、乃ち政友會は江間俊一氏を推し、進歩黨は林誠三氏を推し、吾社會黨は木下尙江氏を推して其候補と爲せり

世間或ひは社會黨の微力を笑ひ、木下氏の得票の甚だ少かるべきを嘲り、寧ろ其の見識に類せざるやを言ふ者あり、然れども吾人を以て之を見れば、彼の主義もなく、政見もなく、單に情實に依り、單に縁故にすがり、平身低頭と賄賂請托とを以て當選を庶幾する徒こそ、眞に見識に類するものなれ、吾黨の候補者が大胆明白なる主義政見を發表して、社會主義と普通選擧との大旆の下に、純潔なる同志同感の士を求め、假し十個にせよ、五個にせよ、三個にせよ、若しくは單に一個にせよ、光輝燦然たる投票を得んには是れ豈に眞に尊貴にして榮譽ある事業に非ずや

マンチエスター派の經濟學を其生命と爲せし田口氏の逝去が、斯くの如くして偶ま東京の中央に社會黨候補者を現出せしむるの機會となりたるは、實に不思議の因縁と云はざる可らず、吾人は屢々田口氏と論戰したるに係はらず、氏の學者的態度に對しては常に敬意を存せしもの、今やマンチエスター派の經濟學が其光輝を社會主義の經濟論に讓り、氏と共に亡び行かんとするを見て、追に一片哀悼の感に堪へざるものあり

○東京市の有權者幾許

東京市の人口は百八十萬なりと稱す、而して其中、衆議院議員の選擧權を有する者幾許ありや、乞ふ左表を熟視せよ

△麴町區	七五七	△神田區	一、八七〇
△日本橋區	三、三三五	△京橋區	二、〇一一
△芝區	一、四七九	△麻布區	四八八
△赤坂區	三九〇	△四谷區	四〇〇
△牛込區	六一四	△小石川區	五一一
△本郷區	八三三	△下谷區	七一一
△淺草區	一、三八六	△本所區	一、〇一四
△深川區	八六四	合計	一六、八一三

僅々一萬六千八百餘人に非ずや、其名は東京市民の選擧なり、然れども其實は東京市民の百分の一の選擧なり、百人中の一人のみ僅かに選擧權を有し、他の九十九人は何等の參政權をも有せず、之をしも猶ほ代議政體の國と稱するを得る乎、嗚呼眠れる九十九人よ、卿等は只一人の爲に壓伏せられ蹂躪せられ、而も猶ほ徒らに此聖代を謳歌せんと欲する乎、覺めよ、醒めよ、卿等の味方は今卿等の前に立てるに非ずや、普通選擧と社會主義とは今卿等の前に高唱せられ居るに非ずや

○貴族富豪と兵役

伯爵大隈重信氏の養子信常氏は去九日を以て洋行する筈なりしが、是れ名を遊學に借りて兵役を忌避するものなりとて、大いに新聞紙上に攻擊せられたるより、遂に其出發を延期するに至れり、又伯爵秋元興朝氏の養子春朝氏は、是も兵役を免れんが爲め、本年一月獨逸に遊學したりとて、物議の種となり居れり、又某新聞は實に左の如き記事あり

○徵兵令と富豪の子弟 今般發布せられたる國民兵召集及び徵[illegible]令等により召集せられんとする富豪の子弟は、名を觀察の名義に借り、或は商業工業、又は農業觀察として歐米に行んとし、是が出願を爲す者甚だ多く、當局者も大に苦心しつゝある由にて、却下するにも其理由なく、左りとて毎日數十通の出願を全部許可するにも至り難く、頗る困難を感じ居ると云ふ

吾人は涙もろし、他の新聞記者の如く冷酷に是等貴族富豪の子弟を責むるに忍びず、然れども中流以上の子弟が多く兵役を免れ居るは爭ふ可らざるの事實也、兵役が主として貧民勞働者の負擔と爲り居るは爭ふ可らざるの事實也、世の學者、識者、政治家、新聞記者、政府當局者は抑々此事實を如何せんとする乎、何時まで此事實を曚蔽糊塗し得べしと信ずる乎、若し曚蔽糊塗し得べからざるを知らば、如何にして其公正を是認せしめんと欲する乎、若し其公正を是認せしめ得ずとせば、如何にして此の軍國制度を維持せんと欲する乎、貧民勞働者如何に無智なりと雖も豈に遂に覺醒するの時なからんや

○鐵道乘客階級廢止論

是れ「東京朝日」の主張する所なり、要領左の如し

△階級制の廢止は獨り會社に取りて利益なるのみならず、乘客に取りても亦便利なり。

△上等客は其の賃金の割合に費用多く會社に取りて利益少きは爭ふ可らず、故に若し會社に於て階級を廢止するに於ては、賃金を據て現今の下等程度と爲し、而して其設備を中等程度となすことを敢て難からざる可きなり。

△市内電車の設備が比較的粗末ならざるに拘はらず賃金は比較的に廉、會社も同時に利益せる、明かに之を證するものあり。

△米國客車の設備が頗る華美なるに拘はらず、其賃金が英國よりも低廉にして、會社も亦多く利益するは、其の無階級制度なるに原因す。

△況んや階級制度なる時は、其のコンフォルト（安樂）の爲よりは、寧ろ体裁を買はんが爲めに、上等車を奮發するもの少からざるに於てをや。現に三等客よりは二等客の方混雜するを往々にして之あり

東朝子の言、固より理の當然なり、少數の上流階級を作らんが爲に大多數の下層階級を苦め、此階級あるが爲めに、一方には羨望嫉妬となり、一方には自負輕蔑となると、汽車中に於けるも、社會全体に於けるも同一也、東朝子何ぞ更に一歩を進めて此の社會全體の階級廢止を唱へざるや

○門司に大同盟罷工起らんとす

去九日門司發の電報に曰く、石炭仲仕四萬八千人は戰時の影響を受けて夥に勞銀の引上を迫りしが其効なく組合一同集會を開き各請負業者に對し七日より十一日迄に勞銀の引揚を實行せざれば同盟休業すべしと告知したりと、未だ其後の報知に接せざれど、由來門司の仲仕は勞働界の大問題なるべき性質を有する者なれば、大いに注意せざる可らず

○基督教と日本皇室

日本基督教靑年會は昨年來その謂はゆるテント事業を戰地に行ひたる爲め今回皇室より金壹萬圓を下賜せられたり、而して基督教徒は皇恩の隆渥なるに感泣し居れり、吾人は日本に於ける基督教の歷史を回顧して今昔の感なきを得ず

○基督教昔はなし

吾人は茲に「新佛教」より左の一節を補綴せざるを得ず、是れ小崎弘道氏が日本基督教の歷史に有名なる「花岡山盟約」に就て語る所なり

『夫から同志の者が集つて誓約をして、吾々は政治に一身を奉ずると云ふことに從事すれば隨分相當な位置を得るであらうが、夫等の事はまだ〳〵下等な仕事で、其う云ふ事をやる人は澤山あるから、吾々は夫よりも多くの人が容易にやり得ぬ仕事、即ち精神界の方面に向つて盡さう、迷へる人心を覺醒して之を正しき眞の道に導かう。其の爲めに如何なる辛苦も如何なる迫害も辭すまいと云ふことになつたのであります。所が此の事が追々發表されて來ます、藩の方では、大變に驚きまして、折角手を入れて勉强させて耶蘇坊主になつてはなんにもならぬ。又さう云ふことは天朝に對しても相濟まぬと云ふような譯になりまして、夫から到頭學校は閉鎖する、共に同志の者をば父兄に預けて謹愼させると云ふことになつたのであります。所が私は最早父がなかつたので、餘り八釜敷いふものもなく、母は勿論大層心配しましたけれど、なんにも惡い事をした譯ではなく、之から善い事をしようと云ふのであるから、從つて心配するに及ばぬと申しまして、母も大略理解し、別に六ヶ敷い事もなかつたので、私の方は先づ私の考へ通りですむことになりましたが、同志の中には隨分騷ぎをやつたのがあります。横井君の如きは、同人の家からそう云ふものを出しては祖先に對しても濟まぬ、殊に亡夫に對して何とも申譯がないから母公が自害すると云ふ次第で、夫から其叔父に當る矢張り漢學の先生があつて頻りに説諭して改心させようと云ふに、横井が頑として動かぬので、叔父からは破門されるなど、至極八釜敷かつたであります。又同志の一人なる吉田と申す者は、父が丈夫であつたので、手打にすると云ふ大騷ぎで、大刀を引拔いたら、吉田が道の爲めには止むを得ぬと云ふて首を出した所が、父公も元來嚇して改心させる積りであつたので、まさか斬る譯にはゆかず、この馬鹿野郎と云ふて縁から蹴落して奧に入つたと云ふことなのでありました、夫から其他の者などはまだ極く年少であつたので、仕方なしに父兄の言に從うて改心すると云ふことになつて、軈て火を焚いて一切の聖書などを燒いて仕舞つたのです。金森君や海老名君なども矢張りそう云ふ風に騷いだのでした』

吾人は之を讀んで基督教の今昔を想ふと同時に、當時に於ける基督教徒の地位態度と現時に於ける社會主義者の地位態度と甚だ善く相似たるものあるを感ぜずんばあらず

●社會黨選擧運動日誌

▲五月七日 平民社婦人有志の席上に於て吾黨候補者推薦の議起る、衆皆木下君を煩はさんと乞ふ、木下君喜んで之を諾し、一場の演説を爲す△此夜神田錦町吉田屋に演説會を開く、直ちに解散せらる

▲八日 平民社に於て運動方針を議す△夜木下尙江君を候補者に推薦し、社會主義同志の大に宣言せる[illegible]を平民社前に出だす△夜芝[illegible]に演説會を開く

▲九日 [illegible]國民[illegible]に吾黨の候補者[illegible]廣告[illegible]を拒絶して受付けざりき△諸新聞紙皆吾黨の候補者に就て記す所あり△木下夫人、福田女史等、此日より奔走大いに力む△四谷の伊藤氏より金五圓選擧運動費として寄附せらる△日本橋の某氏來訪、亦運動費五圓を寄附せらる△夜下谷[illegible]△夜[illegible]民社[illegible]會を開く、木下氏今回中央選擧に打ち出でたるは社會主義の運動に[illegible]、其一節に曰く、[illegible]此経綸[illegible]より日本政府に今日よりも更に一層[illegible]べく、[illegible]新聞記者は更に[illegible]を編輯すべく[illegible]、而して[illegible]の如く目的に設くして鋼鐵の如き所に往く[illegible]

▲十日 木下君の宣言書と社會主義同志の推薦狀とを表裏に印したる印刷物出來△夜同志十餘名平民社に會し人々に運動方法を議す△諸方面よりの賛助を求むるに、形勢甚だ好し、曰く日本橋の同志間に若干票を得たり、曰く神田の同志歡迎會へり、曰く某氏之に贊成せり、曰く某々も亦快諾せり、曰く乃公の手において少からざる票數を得べしと、然れども未だ其數を知らず

▲十一日 午後木下夫人平民社に來り涙して曰く、今日歷訪の結果甚だ好しと△夜神田今金に演説會を開く、例の如く開會の主意を陳べ終らずして解散せらる、來會者大いに激昂す

▲十二日 夜京橋區因幡町市川亭に演説會を開く

▲十三日 夜兩國回向院前武藏屋に演説會を開く

▲十四日 夜下谷二丁町足立屋に演説會を開く

▲十五日 夜神田靑年會館に大演説會を開く

●今日の會合

▲社會黨選擧演説會 今十四日午後七時より下谷二長町足立屋に開く、石川三四郎、齋藤兼次郎、山口義三、熊谷千代三郎、山田金市郎、及び候補者木下尙江の諸氏出席す

▲社會主義研究會 今夜例の如く平民社に開會の筈なれども、別項足立屋の演説會あるに依り次の日曜に延ばす

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○露國革命の發行　露國の革命黨が如何にして其目的を達すべきかは、吾人の目下注意を怠らざる所なるが、此頃左の一報を見ることを得たり

[illegible]

是れ…有力の…革命黨の採用する所の手段として…べからず、然らば之に對する政府の…如何

[illegible]

吾人は此報を得て我が同志の運動の…大なるを喜べり

○メキシコの社會黨新聞　本年二月十九日、メキシコ國グオダラジアラに於て發刊せる「アウロラ、ソシアル」てふ社會黨新聞は、初號にして同時に終刊たるの運命に陷れり、其記者は同地に於ける法律學校の學生にして、ローグ、エストラダと稱する人なり、彼は其新聞を發行せる市中に於て捕はれ、直ちに其地の獄に投ぜらる、此に於て彼の同志七十四名は大に激昂して彼の放免を要求するの一論文を發布せり、蓋し彼等は社會黨たることを表白し、社會主義を愛するの故に出でたりと言はんよりも、寧ろメキシコ國憲法に依りて保障せられたる印行の自由を維持せんことを希望せる也、されど其結果としてローグ、エストラダ氏は放免せられ、一ヶ月の猶豫期間を以てジアンスコ洲外に放逐せらるゝこととなれり、然るに政府は此言を爲すと同時に、學生等に對して其論文を取消さんことを要求せしが、學生等は斷乎として之を拒絶し、而して…は烈しき…を續け居れりと云ふ、可…其意氣…なるや、…力、無…、無理想なる我日本の學生諸君にして若し一片の俠骨有らば、宜しく吾を顧みて…等の前に慚死す可きなり（…）

○露國ロッヅに於ける虐殺　露國諸地に於ける虐殺に就いては屢〻報ずる所ありしが、獨逸社會黨の機關紙「フォルワルツ」に依れば、ロッヅに於ける虐殺は更に甚しきものあり、曰く

[illegible]

何ぞ夫れ暴虐の甚しき、…ザアルの政府の日に民心を失ふて將に崩潰に歸せんとする、亦必然の結果なりと云ふべし。

○デブス氏の傳道旅行　昨年の米國大頭領選擧に於て、社會黨の大頭領候補者となれるデブス氏は、先月中各地方に於て有益なる傳道旅行をなし、其會合し到る所に歡迎せられたり、ピッツブルグに於ける彼の會合に於て、彼は…たる「人手を要す」てふ廣告を示して曰く、彼等が「手」を要するは甚だ當然なり、然り彼等は腦を要せずして手を要するなり、資本家は自己の腦を用ひ、腦の爲めにする富を造るべき手を、勞働階級に要む、されば若し勞働階級にして其腦を用ふる時は、資本家は其腦を用ひたる如く手を用ひざる可らざるに至る可し、而して唯だ投票に依りてのみ、唯だ「手」を投票函に入れる方法に依りてのみ、此手を使用する腦髓と制度即ち資本家制度は維持せらるゝなりと、吾人は勞働階級に向つて投票を教ふる前に、先づ普通選擧の必要を說かざる可からざる也、吾人の運動は實に前途遼遠なりと云はざる可らず

○同盟罷工と社會主義　ペンシルワニア石炭坑に於ける同盟罷工は再び威嚇を被り、坑主は決して如何なる承諾をも爲さゞる可しと傳へらる、而して「アッピール、ツー、リーヅン」記者は曰く、彼等は到底社會主義の下に來つて自己の階級より代表者を選ばざる可らず、終に彼等は從來資本家階級の言にのみ耳を傾けたるを以て此の思境に陷れるなり、彼等は此の經驗に依りて少しく學ぶ所ありたるが如しと、吾人は日本の勞働者の未だ強固なる同盟を造り得ざるを悲む者也

○…選擧法改正案　今回同國議會に提出せられたるが其の内容は下の如し

[illegible]

こは疑なき炭坑夫の大同盟罷工の結果として出で來りたるものなるべく、其の果して議會を通過するや否やは未だ容易に計り難きも、之れ既に一進步なり、嗚呼、屢〻人を殺す我國の石炭坑には何等制裁を加ふるの必要無きか

○オークランドの社會主義　北米カリホルニア洲オークランド市に於ける社會黨は各地方と同じく勢力を高めたり、即ち先きの全市選擧に於ては社會黨の投票數三百九票なりしが、最近の選擧に於ては九百八十一票を得て、三倍の增加を來せり、社會黨が急激の進步を爲すは既に天下の公理となす、只だ吾人は此地が日本人の多く住する所なるが故に、殊に自ら意を注ぐ也

○丁抹社會黨の成功　丁抹社會黨議員は今回又復た八時間勞働法案を議會に提出して、頗る熱心に討論し、各進步黨の投票を得て、政府を脅して經濟情調查委員を設けしむるに至りしが、之れ實に同國社會黨の一成功にして、同黨は之に依りて國民の輿論を喚起し、終には保守黨を屈服するを得べきを信じ居れりと、

○百萬の勞働者飢ゆ　西班牙に於ける百萬の勞働者は今や職を失ふて飢餓に迫しつゝありと、日々勞働して社會に有用なる平民は斯くの如く飢へつゝあるも、社會の寄生蟲たる紳士閥中には未だ其の一人として飢へたるもの無し。無用の長物は富み榮へ、有用の人物は飢に泣く。矛盾も亦甚矣と云ふべき也

○伊太利の選擧權　[illegible]

○濠洲の婦人選擧權　[illegible]

●迫害錄

[illegible]

（七頁參照）

[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●マッツィーニの社會主義評

旭山生

(一) 緒言

△他山の石、以て我が玉を磨くべし、社會主義を公平に解釋するには、味方の説ばかり聞かずに、少しは反對者の説をも味ふて見るの必要がある、今や伊太利の革命志士マッツィーニの説を紹介するのも、即ち他山の石を諸君に呈するに過ぎぬ

(二) 彼の小傳

△マッツィーニは一八〇五年六月廿二日伊太利のゼノアに生れ [illegible]

(三) 彼は如何に社會を見しや

△マッツィーニは當時の社會を如何に觀察したのであるか、彼は曰く「今日の國の民衆の三分の二は、殆んど病院に於ける病床の上に貧困を嘗めつゝ死を待て居るのだ、而も是れ其存分、總ての人は平等で兄弟で [illegible] であると呼ばれてより、千九百年を經過する今日の社會の實状である。ドウして之を傍觀することが出來ようか」と、又曰く「現社會の勞働者は [illegible] の自由を有せず、實際に於て一の奴隷である」「社會の改革は [illegible] 十九世紀の歷史中に於ける最も重大なる事件 [illegible]」

(四) 彼の社會主義反對論

△第一に彼は、社會主義は [illegible] に反對した、彼も尚ほ社會を改革し、資本家制度を撲滅せんことを望んだのである、併し [illegible]

△第二に彼は、階級闘爭といふことを [illegible]

△第三に、彼は國家社會主義に反對した、[illegible]

(五) 彼の社會政策

△然らば彼は如何にして當時の社會を救はうとしたか、第一に彼は曰く、財産の私有は勞働の結果として之を認めざる可らず、資本家制度を撲滅せんと欲せば [illegible] 法律の改革に待つべしと、彼は又曰く、社會の新組織を [illegible] 權力と法律とに依るは [illegible] 個人の自由を [illegible]

△又た彼は權力と法律で新組織を造るのは個人の自由を侵害すると言へども、社會主義者も急に一時に之を實行しやうとは言はぬ、漸次に平和的に行ふことは何人も拒否せぬ所である。次に協同事業を頻りに鼓吹して居るが、其協同の精神を完全に徹底せしめやうとするなら、結局は社會主義を實行したのと少しの違ひは無くなるでは無いか

△諸君、マッツィーニの人物は吾人の深く〳〵敬服し追慕する所で、殊に人道の戰士として、吾等は彼を一の模範とせずには居られぬ、乍併、其社會主義に反對せる一段に至りては、惜むらくば之に服することが出來ないのである

△終に一言す、彼の國粹論を紹介するのは、當今の國家主義反駁の材料として頗る興味があるのだが、暫く之を後日にしにする

(六) 批評に對する批評

△社會主義は [illegible]

●春秋の譜

小野有香

△新潮の惱るゆるぎのかしこさに
愛深きよめ歌まいらする。

△ひたすらに二心よわらぬ落りぞと
一りん咲きに春もたらしぬ。

△思ひきや海山百里香を載せて
春を送れる一りんの梅。

△しら梅の梢の花もにほふべく
愛の譜ひゞき天地ひらく。

△かきならす絃琴八雲の調くう
もだえもつ子の夢破はする。

△手をとれば春の花ひらかれて
にほふ吹風に戀し思わり。

△泣かばやと幾春秋をこがれけむ
しばしは許せ情もつ君。

△愛のなき浮世こちたき假住居
さりとはつらき人の運命い。

△榮はおりき昔かざせし戀ごろも
まだ色あせぬ香こそとめくれ

△かへり來てもの丶命をとりとめよ
榮なき俺にこの身冷たき。

△榮ないひそ野末の梅のひとり笑むも
かをり失せたる斷譜と雖も

△愛します母にも秘めし戀の譜を
身の冷たきにこそと囁きぬ。

△冷えし身に絶えぬ涙こそ榮なけれ
血潮むなしく君きにさわぐ。

△愛の譜は女神天降りしかたみとや
ちりて朽つるかしら梅の花。

△しかすがに心寂しき獨り身の
情を知らで朽ちんとすらん。

△人やあらぬ闇夜ひかりにとざゝれし
盲目あはれむ情ある春。

△冷ゆればぞ白らたつ霜はしら
野の淋しみをまた問ふな君。

△またも問ふな我は默してたゞかはん
弱きに泣ける涙つきたり。

△おく露のもろき命を人間は、
獨花の上にありと告げ來ぬ。

●平民社より

枯川生

▲久しく此記事を怠りました。社中は皆無事です。[illegible] の二兄の消息は [illegible] の通り、[illegible] ではありませぬ。オツカさんも細君も [illegible] 見えます。

▲平民社はドウして立つて行くのかとは、[illegible] 此質問の裏には [illegible]

▲そんな風に、[illegible]

▲平民社の前に [illegible]

▲此頃はツヽジの盛りです。日比谷公園は實に奇麗な事です。小生は去年此頃[illegible]に滯在して、[illegible] 此の公園のツヽジの景色を想像した事でしたが、今年は小生が之を見て、彼の二兄は見る事が出來ないのです。[illegible] 君がツヽジと牡丹とを活けて[illegible]

▲平民舍ミルクホールは其後非常に繁昌して居るそうです。のぶ子夫人勉强の力に依る事と信じます。[illegible] 例の二子は氣焔を吐いてばかり居るのでせう。處は神田三崎町東京座の裏です。

▲或夜日比谷公園の松の木の、皮のむけて白くなつて居た處に、見事な氣取つて「社會主義萬歳!」と大書したイタヅラ者があつた。翌朝早々其字を削り取つたが、後に至つて其松の木まで拔いて行つてしまつた。こんなイタヅラをせぬ樣に諸君に申して呉れと云ふ警察からの御依賴です。

◉買收されたる米國の大學及教會

(ハーバード大學院) 金子喜一

△何者よりも金錢が最も勢力ある米國に於て政治家、新聞記者、議員、學者等の買收されつゝあるは、何人も目前に見得る事實であつて、敢て怪しとなすに足らぬのである、而も大學と教會とは名を教育道德に借りているだけ、それだけ人の眼をくらまし易いので、往々にして、此等の壯麗なる建築物にだまされるのである、何ぞ知らむや米國幾萬の大學と教會とは何れも皆な富豪に依りて買收されたる憐むべき奴隷である。

△世の金滿家があり餘る金を利用せんとして、彼處の教會、此處の大學に寄附金を投ずるのは、一面立派であつて、その慈善心と利他心とは稱すべきである、又一面より見來れば醜の醜である、彼等は自己の金錢の寄附者たるとに依りて、總ての教會、總ての大學を自己階級の奴隷となし、機關となさんとしてゐるのである、而して大學と教會とは又甘じてその慾望に添ふを以て榮譽と考へているらしい。

△今日米國に於て、最もえらき教育家とは、最も上手に寄附金を集める者を指して曰ふので、その人の人物の氣品の高下は必ずしも問ふ所でない、彼等は如何に富豪に泣きつくべきかを知ればよいのである、されば大學總長なぞと曰ふも、必竟うまくたちまわり、如才なく出入する的人物が一番成功するので、平生大胆を以て誇りとせるシカゴ大學のムーパースの如きも、曾て教授ベミスをその學説のために免じたではないか、スタンフオード大學のロース教授事件の際の如きも、日頃自説を憚りなく發表し得るジョーダンは、自家大學の唯一の御得意たる、スタンフォード夫人の感情のために、學者と教育家にとりて最も貴い學問の獨立、主義の抱持を容易になげ捨てたではないか、吾人は如何にジョーダンを辯護せんとしても、彼が一夫人の感情のために學者の精神を無い者にした點は許すことが出來ぬ、彼は何故自ら其地位と名譽を投げ出して、學問の獨立と威嚴とのために盡さなかつたであらふ。

△ハーバアード大學にせよ、エール、コロンビヤ、プリンストンにせよ、何れも少數富豪の寄附金に依りて維持されているのであるから、その教授たる者には、一人も自由にして大胆なる言論學説を發表し得る者がない、殊に社會問題、勞働問題に關しては、皆な口を結んで敢て曰はぬのである、偶ま曰ふ所あれば、徒らに不得要領の意見か、さなくば富豪辯護に全力をそそぐの徒である、此點に於ては日本の帝國大學が政府の奴隷たると敢て擇ぶ所はあるまい。

△過般ジアック、ロンドンがカリフォルニヤ大學で社會主義に就て講演して、米國の大學生は眠つている、諸君は今や足下に推よせている革命の浪に氣附かぬ、諸君は明日何事の起るべしとも知らずして、太平無事を歌つていると曰ふたが、これは當然のことである、買收されたる米國の大學は社會主義を教ゆるにも公平なる批評を下すとをせずして、社會主義を無視せんとするからである、ハーバード大學で社會主義、共産主義を講じているカーバー教授は、其講義の第一回に於て既に自ら辯じて曰く「ミルが自ら社會主義者だと告白せしを以て、社會主義者は直にミルを以て彼等の徒と同一視してゐるのは大なる間違である、自分はミルの曰ひし意味に於ては社會主義者である、否な如何なる經濟學者も社會主義者でなければならぬ、然れども自分は遂に社會主義者では御ざらぬ」と

△予は思ふた、社會主義を學ぶべく集つて來た書生に向ふて、初より何の必要あつて自らの非社會主義を辯ずるのであるか、社會主義の何者たるをも知らぬ書生に向ふて、已に一種の厭社會主義を吹きこむのは甚だ公平を失ふた者であると、曰ふこと勿れ、彼等は買收教授である、大學一般の信用は悉く富豪の寄附金に置かれてあらねばならぬ、物には總て表裏あり、米國大學の此裏面を能く見來れば實にあきれざるを得ない。

△教會もそれと同じ筆法で、悉く富豪の買收する所となり、勞働者は自然に遠ざけられて、牧師とは實に一種の幇間である、彼等の買收されたる說教に何の感化もないのは怪むに足るまい、人情は弱い者である、自分の世話になつた恩人に向つて刄を向けることの出來ない如く、彼等の寄附者に向つては、唯々諾々唯命これ從ふの他ないのである、富豪はかくの如くにして、大學を買收し、教會を買收し、新聞を買收し、而して何れも自家階級の辯護人となし、唯だあはれむべき勞働階級を助けなく見殘し去るのである。

△然るに近時快心の一事は、ロックヘラーに依りて申しこまれたる寄附金を承諾するや否やの議論がアメリカンボード傳道會社に於て起つている、グラッデン博士の如きはその反對者の一人で、ポストンアメリカン新聞の如きも頻りとその議論を助けてゐる、吾人は教會買收の盛なる時に於てかくの如き議論のひき起されたのを喜ぶ者である、如何に金錢萬能なればとて自家の主張を無にしてまでも黄金に頭をさげるの必要はあるまい。

△日本のキリスト教會は如何である、彼等は等しく政府者の意向に合せんことをこれつとめ、徒らに國家を笠にきて軍國主義に謳歌し、甚しきは一種の神政主義をすら主張せんとしてゐるではないか、吾人は今の所謂基督教に對して終に輕蔑の念を起さざるを得ぬ者である、嗚呼大學は買收さるべし、教會も買收さるべし、學者も、新聞も、買收さるべし、然れども世間一人たりとも黄金に依りて買收されぬ義人のある間は、吾人は遂に失望すべきでない、吾人の主張は、他年一日、衆愚を排し靡然として世をなびかす時が來るのである、彼れ大學と、教會と、政府者と、やがて如何せんとはするぞ。

◉お百度詣

大塚楠緒子

ひとあし踏みて夫思ひ
ふたあし國を思へども
三足ふたゝび夫おもふ
女心に咎ありや

朝日に匂ふ日の本の
國は世界に只一つ
妻と呼ばれて契りてし
人も此世に只ひとり

かくて御國と我夫と
いづれ重しととはれなば
たゞ答へずに泣かんのみ
お百度詣あゝ咎ありや

(『太陽』第十一巻第一號より轉載)

革命婦人 平民社同人編 價十二錢(郵税不要)

昨十三日發賣

吾人は此小冊子を溫良貞淑なる日本婦人の膝下に呈す。然れども吾人は必ずしも、溫良貞淑なる日本婦人の直ちに之に效はんことを求むるに非らず、只溫良貞淑なる日本婦人が、世には斯くの如く熱烈なる斯くの如く勇猛なる、而も斯くの如く愛人の念に富める婦人あるを見て、稍か感奮する所あらんことを希ふのみ。内容目次左の如し。

△露國革命の祖母ブレスコウスカヤ(肖像入)
△佛國勞働者の女神、ルイズミッセル(肖像入)
△嬋娟花の如き少女、ウエラフイグチル(肖像入)
△シベリア獄中の烈女
△カラ女囚の飢餓同盟(ハンガー、ストライキ)

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社

◉東西南北より

△壓制の手は益々酷からんとす、傳道行商は抑止せられ、傳道隊は拘引せらる、されど諸兄よ、吾等は信ず、諸兄は之に堪ゆるの耐忍と準備とあることを、終りまで忍ぶものは勝利を得ん、是れ諸兄の確信せらるゝ所なるべし、諸兄の前途は多艱なり、而も諸兄は「日本に於ける社會主義の急先鋒」たるの責任を一日も輕視すべからず、されど諸兄、是れ諸兄が最初に許を固められたる事なるべし(活馬生)

△敬愛する同志諸君、予は名古屋郵便局員なるが、本日「通信事務員を免ず」てふ辭令に接しぬ、嗚呼明治三十八年四月二十一日は予に取りては實に永久忘るべからざる大吉日なり、則ち此日よりして予は微力ながらも其全力を擧げて社會に活動するの榮を得たるなり、予は辭令に接するや、直ちに同志を訪問せしに、彼等は拍手して予を迎へたり、而して萬歳!を叫びたり、快ならずや(矢木鍵次郎)

△僕過日佐倉兵營で曹長が「馬を大切にしろ、貴様達の樣な輸卒は幾らでも引張て來られるが、馬は容易に徵發が出來ぬ、貴様達より馬の方が大切だぞッ」と言ふて輸卒を訓練して居るのを見ました、あゝ輸卒は馬にも劣るのでありませうか(駒込凡骨生)

△秋白二兄の御留守中、さぞかし御心勞の事と御察し申します、近來はこれまで資本家の犬の養成場と見られたる赤門の豫科にも諸處に同志の聲があがるやうになりました、これは實に注意すべき又實によろこぶべき事だろうと思ひます、で本校にも大分あるやうで、中には五六人もあるクラスがあります、こゝ二三年を待たずして屹度赤門の毛色もかはる事だろうと思はれます、(金澤四筋帽子)

△二十三日の早朝に刑事殿が來て、松岡文子氏の事から、直言の賣高などクドクドしく聞いた、直言は一萬以上出るだろうと答へたら、彼は「可成、此所二週間許りは運動を止め給へ、檢束は之から翌朝までといふことになつたよ」と忠告らしく云ふ、僕は癪にさわつたから「吾々は脈管に血の躍る限り呼吸の通ふ限りは止めぬと言ふてやつた(世氏)

△社會主義者一團の諸氏が毒牙毒手の迫害に抗し、眞理の宣傳に殉し、社會組織の改良に盡すの有樣、吾等は謳歌の感謝を捧げて同情せり、然るに余が今日の地位は此敬愛する諸氏に對し、陽に反目敵視の快ならぬ[illegible]はらざるを得ざるを如何せん、余は妻あり子あり、衣食之要求は余をして一個の偶像たるを止む能はざらしむ、人生堪えべからざる事多しと雖も、而も志操の束縛精神の抑制ほど痛苦なるもの他にあらんや、時に胸中の憤懣勃發して妻と子を抛つの意を決せんとする幾回なるを知らず、願くは人道の爲め、幾億萬の生靈の爲め、此惡制度を顚覆して地上に天國を活現せしめんことを(在本郷迷生)

△今日は五月五日の節句、郷に居つたら、鯉のぼりでも樹てゝ愛兒の笑顔に一杯を傾くべきに、兵營にある身はそうは行かず、下宿の妻君が折つてくれた柳子の一枝、隊に行て空瓶に活けて食卓の上に置くと、通りかゝつた上官の手に奪はれた、アゝ吾等は一枝の花をも愛づることが出來ないのだ(横須賀兵人)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●通俗社會主義

ブラッチフォード氏原著　堺枯川抄譯

（十二）人の本性と社會主義

反對論者は能くコンナ事を云ふ。「社會主義は人間の性情に背いて居る。人性の根本は私慾心であるのに、社會主義は人に平等を強いる。あれでは奬勵が無くて誰も骨折つて働く氣にはなられない」

されど、人の性情がそんな單純な私慾心ばかりのものでありませうか。經濟學者や、政治家や、新聞記者や、事業家や、そんな人達に人の性情の解釋をして貰つて諸君はそれを承知なされますか。人情を解する學校は此浮世の外には無く、其教科書はシエキスピア、ユーゴー、近松、馬琴、其他古今の詩人、歌人、文人の作の外はありませぬ。諸君は必ず是等人情の教科書をお讀みになつたでありませうが、其教科書の云ふ所と、諸君が實際此世の中で經驗した所とを思くらべて、人性の根本が私慾心計りと思はれますか。

人の性情は實に複雜なものです。溫和な、親切な、上品な、學問のある、年若い美しい看護婦が、何等の報酬を求むる事も無く、只其一身を犧牲にして、危險多き戰場に立ち働き、數多き負傷兵士を皆一樣に介抱して、其傷を包み、其血を洗ふの光景は、實に貴きものではありませぬか。又之に反し、醜惡なる顏容、毒々しき言葉使ひ、見るもゾッとするが如き賣淫婦が、貧民窟の暗黑の間に出沒して、罵り、嘲り、爭ひ、狂ひ、飮み、食ひ、遊び、戯むれ、放埒に、淫猥に、其一身を持ちくづす光景は、實に恐ろしきものではありませぬか。然しながら、あれもこれも同じく人の性情です。其外、人の世を見渡せば、戰爭をして居る兵隊もあり、人の家に忍び込む盜賊もあり、槌を振りあげて居る鍛冶屋もあり、機織場に働いて居る女工もあり、舞臺に踊つて居る俳優もあり、說教をして居る坊さんもあり、赤子を抱いて居る母親もあり、亡夫の墓に詣でる若後家もあり、法冠法服を着けた裁判官もあり、鍬を肩げて居る百姓もあり、人の軒下に眠る乞食もあり、妻妾に戯むる、華族もあり、手術臺に臨める外科醫もあり、戀人の上を思ひわづらふ小娘もあり、斯く考へまはして後、諸君は猶ほ人が單純に私慾心ばかりで動くものと思はれますか。利益の爲ばかりに働くものと思はれますか。

反對論者は兎もすれば「人間はそんな奇麗なものぢやない」と云ひますが、奇麗と奇麗でないとは其境遇に依る事です。試みに問うて御覽なさい、櫻には奇麗な花が咲くかと。日あたりの善い、土の肥えた處に植えて置けば、勿論奇麗な花が咲きます。然らば次に問うて御覽なさい、薔薇には奇麗な花が咲くかと。空氣の流通の惡い、日陰の濕地に植ゑて置けば、決して奇麗な花は咲きませぬ。更に問うて御覽なさい、川は美しきものであるかと。然り、高山より落ち來る清流を受けて、兩岸には竹や柳を茂らせながら、平野の間に石の床の上を流れ行くならば、勿論美しきものであります、若しそれが都會の下水なんどを注ぎこまれて底には多くの泥を澱め、濁水滔々として汚き人家の間なんどを流れ行くならば、否々決して美しきものではありませぬ。人間も其通りで、境遇次第に依りて、愛も失せ、情も傷はれ、殘酷にもなり、我慾にもなり、卑劣にもなりますが、それが人間の本性とは云はれませぬ。

されば、利益を以て人を釣らねば、人は働くもので無いと云ふのは、實に淺薄極まる考へです。社會主義の行はれた世になれば、人の境遇が一變して、日陰から日向に出た如く、泥水が清水になつた如く、人の性情は一變して、純潔無垢の奇麗な、美しいものとなるに相違ない。其時になつて、利益を以て人を釣らうなどと云ふ者があらば、それこそ實に滑稽至極であらうと思ひます。

現に今の世に於てすら、多くの人は利益よりも愛情と名譽との爲に働いて居るではありませぬか。自己一身の衣食住を思ふよりも、女房や親や子孫の幸福を思ふが爲に、一生懸命に働いて居るのです。又一方には、どうかして人に褒められたい、人に善く思はれたいと云ふ一念の爲に、惡く云へば虛榮の爲に、一生懸命に働いて居るのです。金が欲しいと云ふのも、畢竟は其金を以つて、妻子を安樂にしてやりたい、人に善く思はれたいと云ふのです。

又、利益を以て人を奬勵すると云ひますが、利益の爲に學問上の發明杯が出來ますか。幾ら金をやるからと云つて賴んでも、天才の無い者に發明は出來ませぬ。金なんぞ貰はずとも、天才の人は自己の滿足の爲に其發明をせずには居りませぬ。

されば、社會主義の行はれた世には、自己及び妻子の衣食住を心配するにも及ばず、子孫の將來の爲に心配するにも及ばぬのですから、利益を求むるの念（即ち今日の金を欲しがる念）は全く無くなつて、只名譽の爲、愛情の爲、趣味の爲、義務の爲、眞理の爲、良心の滿足の爲に、人は皆熱心に働く事となりませう。

●普通選擧（請願用紙）配布

▲今年の冬には、我々は更に大擧して普通選擧の請願をなさねばなりませぬ。それには今日より徐ろに調印を取纏めて置くの必要があります。我々の運動は常に注意して、絕えず倦まず、氣永く辛抱づよく、一步一步に進むの覺悟が無くてはなりませぬ。

▲それで我々は常に請願用紙を準備しおきて、手當り次第に調印を取りたいと思ひます。諸君の中で此勞を取りたまふの熱心と餘暇とある御方には、御申越次第請願用紙を差出します。但し一枚につき五厘の實費御送附を乞ふ。

▲郵稅は二十枚まで二錢です。

▲此件に關する一切の事務は當分小生の手に於いて取扱ひます。

平民社內　齋藤兼次郎

●運動基金募集

二人の同志は巢鴨の獄底に在り、二人の同志は傳道行商の途上に在り、幾多の同志は其主義に忠なるの故を以て失業せり、幾多の同志は其主義を叫ぶの故を以て就職するを得ず、而して演說會は解散せられ、傳道隊は禁遏せられ、新聞雜誌の營業は常に甚だしく妨害せらる、吾黨の運動は政府迫害の下に隨つて困難を加へざるを得ず、而して困難の最も甚だしきは基金の缺乏に在り

運動基金は從來絕えず同志諸君の供給を仰げり、而も今や吾人は更に諸君に急訴するの止むを得ざるに至れり、吾人は此の基金缺乏の際に於て、更に茲に選擧運動を開始せり、吾人は固より多くの運動費を費して選擧場裡に勝敗を爭はんとする者に非ず、然れども多少の廣告料、多少の印刷費、多少の郵稅、多少の雜費亦固より免るべきに非ず

運動基金は『直言』第十一號に報告したる以後に於て左の如く收支せられたり

▲金七百八十八圓八十九錢　四月十二日現在
▲金十圓八十錢　四月廿四日迄收入
▲金三十六圓四十五錢　五月十日迄收入

內譯

△金五十錢　新潟　不盡の子
△金一圓　橫濱　關水和介氏
△金五十五錢　鳥取　由谷義次氏
△金一圓　北海道　宮本鎌次郎氏
△金一圓　秋田補充隊　きむら氏
△金一圓　三重　中村隆平氏
△金三十五錢　大阪　常見氏
△金一圓（十回）　東京　無名氏
△金十錢（第一回）　銀座　池田生
△金一圓　滿洲　岡田博虎氏
△五十錢　越後　間瀨氏
△金五十錢　Y K生
△金一圓　橫濱　曙會
△金四圓（新聞賣揚）　（松岡文子氏　延岡爲子氏）
△金二圓　四谷老人
△金四十五錢　森藤三郎氏
△金五十錢（第二回）　麻布　無名氏
△金五圓（選擧運動費指定）　伊藤長三氏
△金五圓（仝上）　兩國　無名氏
△金十圓　市谷　某氏

△收入合計　金八百三十六圓十四錢

▲金五圓五錢　傳道隊費
▲金二十圓二十錢　演說會費
▲金二十五圓十五錢　チラシ印刷代
▲金二十圓　特別秘密費
▲金五十圓　國光社賠償月賦
▲金二十五圓　平民社二月分補助追加
▲金百圓　平民社四月分補助

△支出合計　金二百四十八圓四十錢
△差引現在　金五百八十七圓七十四錢

平民社に稍多くの經費を要したる理由も、特別秘密費の果して何物なるかも、吾人は今茲に殊らしく說明せざるべし、兎にかく迫害の下に於ける運動が、多くの金錢を要するの事情は、諸君の諒察せらるゝ所なるべし、斯くて吾人は今僅かに運動基金五百八十圓を有せり、而して國光社には每月（五ヶ月間）五十圓の賠償を爲さゞる可らず、平民社には每月五十圓或は百圓の補助を爲さゞる可らず、而して猶他に選擧運動の如き臨時の費用を支出せざる可らず、而して猶他に共產黨宣言事件に於て二百四十圓の罰金を拂はざる可らざるの虞あり、是れ吾人が敢て同志諸君に急訴する所以也

然れども我が同志諸君の多くは、吾人と同じく寧ろ衣食の急を告ぐるの人也、吾人實に言ふに忍びざるものあり、願はくは只吾人の心事を諒とせられよ、吾人も亦更に一身の費と社中の費とを節して不足の幾分を補ふに勉めん

●木下尚江君著 小說

（注文は平民社へ、郵稅不要）

火の柱　參拾五錢

我青年の此書に依て慰籍を得、奬勵を得、自覺を得たる者、擧げて數ふ可らず、男子は「篠田長二」に於て改革者の模範を得、女子は「山木梅子」に於て貞烈の理想を見たり

良人の自白　前編　參拾五錢

曰く有夫姦、曰く有婦姦、是れ勿論人生の最大罪惡也、然れども社會は之を制裁するに當つて先づ無愛情の結婚てふ根本的罪惡を批判せざる可らず、否此根本的罪惡を强要せる社會自身を懲責せざる可らず、良人の自白は即ち明治社會の懺悔也

良人の自白　後編　（目下每日新聞に連載中）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲九州傳道行商日記（四） 小田頼造 （熊本市より）

▲四月二十三日（晴） 朝岡川出發二川村に同志早川直[illegible]を訪ねた、[illegible]永村で漁村人が[illegible]其に二階へ[illegible]居る[illegible]探偵[illegible]呼んだ[illegible]此夜は二川村泊り▲二十四日（陰） 朝大牟田町に行き牧師[illegible]氏に面し、市中を行商した、大牟田町で有名な[illegible]炭坑のある[illegible]三井家[illegible]非常な[illegible]▲二十五日[illegible]

[illegible]

▲東北傳道行商日記（四） 荒畑勝三 （岩手縣[illegible]町より）

△四月廿六日、今日は又雨である、小川氏に案内されて[illegible]を訪問して行商した、[illegible]した、正午小川氏に別れて北相馬郡に同志野村氏を訪ふ[illegible]此[illegible]途中で僕に餽走した、野村氏方に泊る、夜になつて村の[illegible]巡査が訪ふて來た、△二十七日、早朝から[illegible]會[illegible]僕を待つて居る、千葉縣では巡査が[illegible]外へ泊[illegible]野村氏方では拘引されたのぢやないかと心配して居[illegible]木村氏と共に革命を[illegible]△二十八日、朝起きる[illegible]門外に僕を待[illegible]居る、木村氏[illegible]を[illegible]沼崎氏の家に厄介になる、[illegible]名は前の家で見張[illegible]談話會を開[illegible]夜は[illegible]沼崎氏と木村氏[illegible]僕と三人[illegible]して種々の物語[illegible]△二十九日、木村氏[illegible]此の道[illegible]中に[illegible]去るの[illegible]ならぬ、[illegible]と、僕は[illegible]江川崎町に入[illegible]に[illegible]夕方[illegible]△三十日、[illegible]日曜學校[illegible]

[illegible]

▲社會主義大演説會 （神田今金）

▶中止、解散、又々解散

[illegible]去る廿八日午後七時[illegible]神田今金[illegible]にて[illegible]五十有[illegible]中止を[illegible]理由[illegible]時間[illegible]一大論[illegible]

[illegible]は動搖を始め喧騒を極めたり、其時石川氏は再び立ちて「社會主義の歌」を配布するに就きて注意を述べ[illegible]一週日前に[illegible]其他[illegible]中止[illegible]解散[illegible]

▲婦人講演會 （平民社）

去る七日午後一時より例の通り平民社樓上に開く、來會者婦人廿名男子も殆ど同數、[illegible]婦人論[illegible]の[illegible]方面[illegible]立て「東十六日[illegible]」[illegible]事[illegible]とのこと[illegible]堺枯川君[illegible]の後、[illegible]種々[illegible]を[illegible]歌を[illegible]て五時過ぎ閉會せり

▲社會主義演説會 （神田三崎町）

▶演題▶[illegible]

去る七日午後七時より、木下尚江氏[illegible]神田三崎町三丁目一番地[illegible]に開く[illegible]

▲社會主義演説會 （本郷[illegible]町）

▶選擧の干涉、演説の干涉

[illegible]

▲社會主義研究會 （大阪平民社）

五月一日午後七時開會、來會者二十餘名に過ぎなくて[illegible]

▲大阪平民社業務成績 森近生

[illegible]

▲次[illegible]

▲長洲町談話會 （肥後）

[illegible]

▲[illegible]町談話會 （[illegible]）

[illegible]

▲函館小民倶樂部第六次小集

[illegible]

▲[illegible]社會主義演説會

去る五月一日[illegible]

新刊紹介

▲東京遊學案内（少年園編纂） 上京せんとする青年男女に[illegible]

▲女學範（大江武衛著） 本書は武家時代女學[illegible]

△社會主義世界（[illegible]）（有樂町有樂社）

[illegible]

土方の歌 千代坊

いや厭ちや、厭ちやよ、土方は厭ちや。
雨が三日降りや、子供も婦も。
枕ならべて野倒れて死ぬる。
仝じ日本の人ではないか。
乃公が總領は兵士でござる。
○でござるの○○でござる。
ござる、ござるで○○でござる。
親爺は食ふにも困つてござる。
せめてなるなら露西亞の捕虜に。
捕虜にや、パンもあり家もあり。
どうせ死ぬなら役所の門で。
腹を斬るなと、首つるなりと。
國の費用で卒塔婆が建ては。
長家近所の世話いらず。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

●社會主義の歌

富の鎖を解き棄てゝ、自由の國に入るは今、正しき、清き、美しき、友よ手を取り立つは今。

山をもい抜く大力に、天地もどよむ聲あげて、歌へや揮き愛の歌、進めや直き人の道。

迷信深く地に入りて、拓くに難き狭道、審言辛く襲ふとも、審手苦しく責むるとも。

我身は常に大道の、ソシアリズムに捧げつゝ、勵むは近き今日の業、望むは遠き世の光。

砲よ、劔よ、いつまでも、國と國とはせめげども、我等は常に同胞の、四海友なる天の民。

賴むは結ぶ手の力、かざすは高き義の心、富よ位よ地を占めて、よし今ひとり荒ぶるも。

漲たる汗に誠あり、打ちふる小手に命あり、行かで止まめや此歩み、成さで止まめや此叫び。

5. 5 5. 3 トーミノ	.5. 5 1. 1 クサリヲ	2. 1 2 3 トキステ	2. 0 テー
1. 1 2. 2 ジユウノ	6. 6 5. 5 クニニ	3. 3 5. 5 イルハイ	2. 0 マー
3. 5 3. 5 タヾシキ	6. 6 6. 5 キヨキ	3. 5 3. 5 ウツクシ	6 0 キー
1. 1 2. 2 トーモヨ	3. 3 1. 1 テヲトリ	6. 6 2. 2 タツハイ	5. 0 マー

平民文庫出版廣告

●社會主義入門 平民社同人編 定價十錢
●消費組合の話 石川旭山著 定價十二錢
●地上の理想國瑞西 安部磯雄著 定價十五錢
●社會民主黨建設者ラサール 幸德秋水著 定價十五錢
●土地國有論 西川光次郎著 定價十錢
●富の壓制 西川光次郎著 定價十錢
●經濟進化論 田添鐵二著 定價十五錢
●小說火の柱 木下尚江著 定價卅五錢
●小說良人の自白 木下尚江著 定價金卅五錢
(以上總べて郵稅を要せず)

五錢本之部 一部價五錢郵稅二錢 但二部以上郵稅不要
●百年後の新社會 堺枯川抄譯
●理想鄉 堺枯川抄譯
●ジヨン・バーンス 西川光次郎著

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社
取次所 大阪市中ノ島宗是町田簑橋南詰 大阪平民社

●書籍取次販賣(郵稅無料)
●社會問題解釋法(安部磯雄著) 一圓廿錢
●社會主義神髓(品切) 三十錢
●廿世紀之怪物帝國主義(同上) 廿五錢
●百年後の社會(平井廣五郎譯) 六十錢
●小說勞働問題(堺枯川譯) 卅五錢
●社會主義概評(島田三郎著) 三十錢
●社會黨(西川光次郎著) 十五錢
●破帝國主義論(品切) 廿五錢
●產業組合手引(森近運平編) 二十錢
●青年と生存競爭(安藤晃毛喜著) 二十錢
●枯川隨筆(堺枯川著) 二十錢
●我家の犬猫(同上) 八錢
●トルストイ翁日露戰爭論(平民社譯) 八錢

取次所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社
取次所 大阪市中ノ島宗是町田簑橋南詰 大阪平民社

正則中學講義錄

▲會長尾崎行雄▲講師高等師範諸教諭▲科外講師博士學士三十餘家▲講義新式にして叮嚀懇切▲會費最も低廉▲貸費生優待生の特典あり▲四月より新學期開始す

東京神田區北神保町(電話本局三千四番) 大日本國民中學會

學制大改良●科外講義大附錄●機關雜誌新國民

▲詳細規則は最寄の高等小學校長に問合はすか又は直接本會に申込め無料進呈す

新國民には發行會員には無料進呈●目下入學の最好機

山路愛山主筆 獨立評論 (毎月一回三日發行)

△第四號(五月三日發行)には所謂時事問題なるものなし、但し日本思想界に於ける基督教の位置(四)は全篇四十頁に亘れる長文にして記者の最も力瘤を入れたるものなり△一冊定價八錢郵稅五厘

發行所 東京府下澁谷村中澁谷九百二番 獨立評論社
一手販賣 日本橋本石町 寶文館

活版印刷
東京築地 株式會社 國光社
電話新橋 二六九三番 特電話 八八番

家庭雜誌

●三卷五號(五月二日發行)
○米國に於ける離婚問題(金子喜一)
○妹の手紙(女學校の內裏)
○告天子の歌(シエレー)
○一葉園藝‖●朝顏の栽培●午旁の葉の利用●兩得の生雞●苺の栽培●理科問答等
○婚後半年所感
○人生最始の記憶
○料理の一品
○西洋風俗『戀の日』
○面白い思想習慣
○家庭者としての男性の欠點(濤山)
○『簡易生活會』の反響
○青年と結婚(筆ついで)

一冊六錢△六冊三十二錢△十二冊六十錢△郵稅當方持△見本は一部六錢(郵券)にて送る
發行所 東京芝區新堀町三十(移轉) 由分社

聖書講義錄 (毎月一回、十五日發行)

第三號(四月十五日發行)目次
弓の歌(タビデの悲歌) 湯淺吉郎
舊約聖書總論 牧野虎次
以賽亞書講義 日野眞澄
耶蘇の時代 原田助
約翰傳釋義 宮川經輝
馬太傳講義 安部清藏
雜纂
耶蘇傳年表考(吉崎彥一)◎山上說教の本文研究◎新約全書著述年表◎(ベーコン博士とツアーン博士の意見)◎質疑應答◎編輯記事

定價 一冊金十八錢 郵稅一錢 半年前金一圓(但郵稅共) 一年前金二圓(同上)
●基督教世界の讀者諸君には特別一割引にて御注文に應ず(但本社直接購讀者に限る)
發行所 大阪北區中之島五丁目 基督教世界社

男女生殖器病專門 內科外科 淚紅醫院 東京神田連雀町十八 院長 醫士一瀨廣一
診察無料藥術料任意 電車萬世橋下

外科皮膚病 梅毒痳痔外科的婦人科尿道器械的療法
東京 加藤病院
診察 午前九時より十二時まで
新橋際出雲橋 電話新橋一〇三
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 橫濱神奈川臺 火木土自午後三時至六時 小田原海岸 毎月曜午前中

●斷食不要 條蟲治療 即日頭尾を下し全治す
午前七時迄に來れば正午前後に治療濟む
東京市芝區西久保八幡町十番地 市川驅蟲院

婦女新聞

△來る十五日發行▽ 五周年紀念號要目豫告
▲五周年の辭……編輯局同人
▲思ひ出づれば……福島春浦
▲なぜ?……下中芳岳
▲家の風(銀婚式の日嫁のために)……某夫人
▲女中論……高信狂醉
▲暇もらひ日記(おさんどん日記の一節)……潔子
▲友道……嶋山春子
▲人の母……藤堂梅軒
▲晩鐘——アンデルゼン——……藤田いさを
▲小說「八重山吹」(富獎の三等)……夕月
▲洋犬エス……秀閣女史
▲露スコー……大連灣 川村生
▲事實小說「戰爭の裏面」在滿洲……石山生
▲祝歌……大和田建樹
▲祝歌……下田歌子
▲挿畫……小島沖舟
▲挿畫……德永柳洲
▲定價一部三錢▲三ケ月卅七錢▲全國無郵稅▲切手代用一割增
發行所 東京牛込區東五軒町 婦女新聞社

麻病せうかち 根治神劑 快淋丸

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所繁松調製せし者にて輕きは一週間如何なる難症にても一ケ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり
藥價 三日分十五錢 七日分三十錢 ●十五日分六十錢 ●一月分一圓
東京市中は即刻配達す●全國無料送達す
發賣 神田區皆川町一番地 一志堂藥局 電話本局三千四十番

●平民新聞全部合本致したいのですが第一號が不足ですから若しお讓下さる方は御一報を願ます
神田區美土代町四の五田澤方 安形恒夫

▲本紙定價 一部三錢五厘、廿部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、郵稅不要
▲廣告料 一行十九字詰三十錢
▲注文 は總べて前金に限る
▲郵券代用 にて御送金の場合は必ず一割增とし成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地 直行社
發行兼編輯人 原眞一郎
印刷人 山田金市郎
發賣所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社 電話(本)三二六二
印刷所 東京築地二丁目十二番地 株式會社國光社 電話新橋特八八、新橋二六九三番